

同志社大学新島塾

Neesima School of Leadership Training

2023年度(第5期)塾生

入塾の手引き

募集・選抜要項



2022年12月13日 第1版

改訂履歴

No.	日付	改訂箇所	改定内容
1	2022年12月13日	-	新規作成
2			
3			
4			
5			

「同志社大学設立の旨意」(抜粋)

…(同志社の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、其徳性を涵養し、其品行を高尚ならしめ、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき。而して斯くの如き教育は、決して一方に偏したる智育にて達し得可き者に非ず。唯だ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基督教主義の道徳に存することを信じ、基督教主義を以て徳育の基本と為せり…

…人民の手に拠って設立する大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信ず、其生徒の独自一己の氣象を發揮し、自治自立の人民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所たるを信ぜずんば非ず…

…一国を維持するは、決して二、三英雄の力に非ず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず。是等の人民は一国の良心とも謂ふ可き人々なり。而して吾人は即ち此の一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。吾人が目的とする所実に斯くの如し。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄

I .MESSAGE

同志社大学は、1875年の同志社英学校開校以来、「志」のある学生を受け入れ、キリスト教主義教育を徳育の基本とし、良心を手腕に運用しながら自らの力で人生を切り拓くたくましさを備えた自治自立の人物を養成してきました。

これからの社会は、AI や IoT などのキーワードに見られるとおり、人工知能の開発や活用といった社会構造の大きな変化が予測されています。今後、日本や世界がどのような時代を迎え、人々の生活がどう変わるのかの見通しがますます困難になってきています。

このような時代においては、幕末から明治にかけて社会のあり様が大転換した時代と同様に人生を切り拓く力を培うことが重要です。そのような意味において、明治維新の激動が冷めやらぬ時代から継承している本学の良心教育は、先行きの不透明な今日においても決して色あせない普遍性を持っています。

同志社大学では、良心教育を継承しながら、文系と理系の垣根を越え、総合知を備えた次の時代を担う人物を養成するための新しい教育プログラムとして、「同志社大学新島塾」(以下「新島塾」)を2019年度に開校いたしました。新島塾では、学生の皆さんの意欲と能力を在学中に可能な限り伸ばし、社会の様々な分野で活躍する有為な人物を輩出することを目的としています。そして、それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、リーダーシップとフォロアーシップを兼ね備えた人物の養成を目指しています。

いかに時代が移り変わろうとも、人に寄り添って真摯に意見を汲み取り、全体を見渡して、他者や組織を最善の方向に導くことができる人物は、多様性と寛容に満ちた豊かな社会を築く上で欠かせない存在です。

新島が「人を植ゆる」という言葉に託したものの、「人一人ハ大切ナリ」という言葉に込めたものが、新島塾にはあると信じています。

新島塾のプログラムは、いずれも骨のある熱い取組になるはずで、塾生の皆さんが互いの「良心」を信頼し合い、真剣で自由な、そして人格的な知的交流を重ねることで、互いに切磋琢磨できるものと大いに期待しています。

同志社大学新島塾 塾長
(同志社大学 学長)
植木 朝子

II. 新島塾とは

■人物養成の指針(プログラム実施のねらい)

- ・学生時代の早い段階で、課題解決の「解」は1つではなく、複合的視点で考察し、物事の本質を見極める力が不可欠であることを知る。
- ・組織やチームを最善の方向に導くための「解」を見出すには、所属学部 of 専門領域を超えた幅広い知識に触れ、基礎学力を身に付けることが重要であると知る。
- ・自身が担うべき役割を的確に判断し、様々な意見を汲み取りながら他者や組織を主体的に最善の方向に導くことができる人物に成長する土台を形成する。
- ・自身の潜在力を顕在化させるには、日々の地道な努力が必要であることを知り、強い「志」や生涯を通して学び続ける姿勢といったリーダーの素養を獲得する。
- ・新島塾修了後は、大学の様々な活動の中でリーダーシップを発揮し、他の学生と学びの価値や「志」を共有する。

■入塾対象等(2023年度入塾者から適用します)

対象者	本学学部2年次生(出願・選考時は学部1年次生)
入塾期間	学部2年次春学期から始まる通算1.5年 ※学部2年次春学期から3年次春学期末までの1.5年が標準的な入塾期間です。在学留学等で不参加のプログラムは、次年度に受講いただきます。 ※3年次秋学期は、塾生がワークショップを企画・開催するなど新島塾での学習成果を実践する自主的な活動期間とします。
定員	20名以内(1学年につき) ※入塾者選抜の結果、入塾資格を与えられた者が5名未満の場合、当該学年へのプログラムは実施しません。 ※入塾者の追加募集は行いません。
費用	原則として無料 合宿の宿泊費・食事代やフィールドワーク旅費・宿泊費は大学が負担します。ただし、以下は入塾者の負担とします。 ・同志社びわこリトリートセンター、フィールドワーク発着地までの交通費 ・学外活動で個人的に行う飲食、施設利用料等の諸費用 ・課題図書、参考図書の購入費用(※) (※)書籍購入時のレシートと引き換えに購入費用を後日返却します。

■修了証

後述する修了要件を満たした塾生には、塾長(学長)から「同志社大学新島塾修了証」を授与します。

■特徴

POINT1:新島塾独自のプログラムが受講できます!

塾生だけが学ぶことのできるオリジナルプログラムを提供します。少人数で講義を受け、レポート作成や討論を行い、切磋琢磨しながら学びます。学問分野の壁を超えて幅広く学ぶことで、得た知識を自らの力でつなぎ合わせ、広い視野で物事を判断できる力を養います。

POINT2:潜在力の顕在化に向けた基礎トレーニングです!

学びに対する意欲の高い学生の能力をより伸長させるため、厳しい指導の下、多くの課題をこなします。肉体的にも精神的にも負荷がかかる内容です。これまで新島塾を修了できた塾生は、約3割という厳しくハードなプログラムです。

POINT3:実践の場があります!

3年次秋学期は、新島塾で身に付けた能力やリーダーシップを発揮するための、自発的な活動期間です。あらかじめ用意されたプログラムに参加するのではなく、塾生自身が自由にテーマを設定し、主体的にプロジェクトを企画、運営する「実践の場」です。実施に際しては、新島塾が塾生をサポートします。

POINT4:将来のキャリアを切り拓くことができます!

多くの塾生は、叶えたい夢を持って新島塾の門を叩きます。新島塾で様々な知識を身につけ、多くの経験を積んだ修了生たちは自身のキャリアを主体的に切り拓いています。

Ⅲ. プログラム

新島塾ではプログラムを通して人物養成の指針で掲げた資質や能力を身につけ、それらを統合的に活用して発揮できる力を養います。

■ 必修プログラム実施の方針

知識や技法の伝達だけではなく、人間相互の信頼関係を構築する同志社大学の教育的伝統に基づき、「書を読み、友人や先生と語り、仲間と協働する価値を学ぶ」をコンセプトに据え、所属学部や専攻分野を超えた文理横断的な幅広い知識の獲得を目指す新島塾オリジナルのプログラムを編成しています。

必修プログラムは、人物養成の指針を達成するため次の方針に従って実践します。

「リーダーシップ論・ワークショップ」では、リーダーの役割や求められる能力を理解します。自分に期待されるリーダーシップとは何か実践を通して学び、新島塾の修了後にどのようなリーダーになりたいか、自身の将来像を描きます。年間を通じて実施される「読書から始まる知の探究」で、文理の壁を越えた多様なテーマで学習を行い、幅広い視野で主観や先入観に捉われずに考察、探究する力を養います。また「合宿で鍛える知的基礎体力」では学知の基礎を身に付け、塾生が自ら継続的に学ぶための学習方法を習得します。

必修プログラムでは、講義形式の学習に加え、学んだ知識を実践し、講義内容の理解をより深めるためにフィールドワークなどの学外活動や、アクティブラーニングなどを活用した能動的な学習を実施します。そこで塾生は自ら課題を設定し、様々な背景を持つ塾生と協働して主体的に課題解決に取り組む経験を積みみます。

新島塾は、文理横断的な知識だけでなく、リーダーとしての素養や徳力といった「総合知」を備えた人物を養成し、社会の各方面で活躍する人物を輩出することを目指します。

※必修プログラムの諸活動は、必然的に土曜、日曜、祝祭日や平日の遅い時間帯またはゴールデンウィーク、夏期休暇期間、冬期休暇期間などに行われます。

1. リーダーシップ論・ワークショップ(春)

「リーダーシップとはいったい何か。リーダーとはどのような人なのか。リーダーに必要な素養や能力はいったい何なのか。」これらに明確なただ一つの解があるわけではありません。新島塾塾生として学びを開始する段階で、リーダーシップとは何かを学び、自分にふさわしいリーダーシップスタイルを構想してください。そのうえで、チームはどうあるべきで、自分はその一員としてどう考え、どう行動すべきかを理論だけでなく実践から学びます。

2. 読書から始まる知の探究(3月開始・通年)

春学期、秋学期に課題図書を読み、あらかじめ指定された読書後の活動(書評の執筆、課題図書のテーマに関するディベートやフィールドワーク等)を通して取り上げられる問題を考

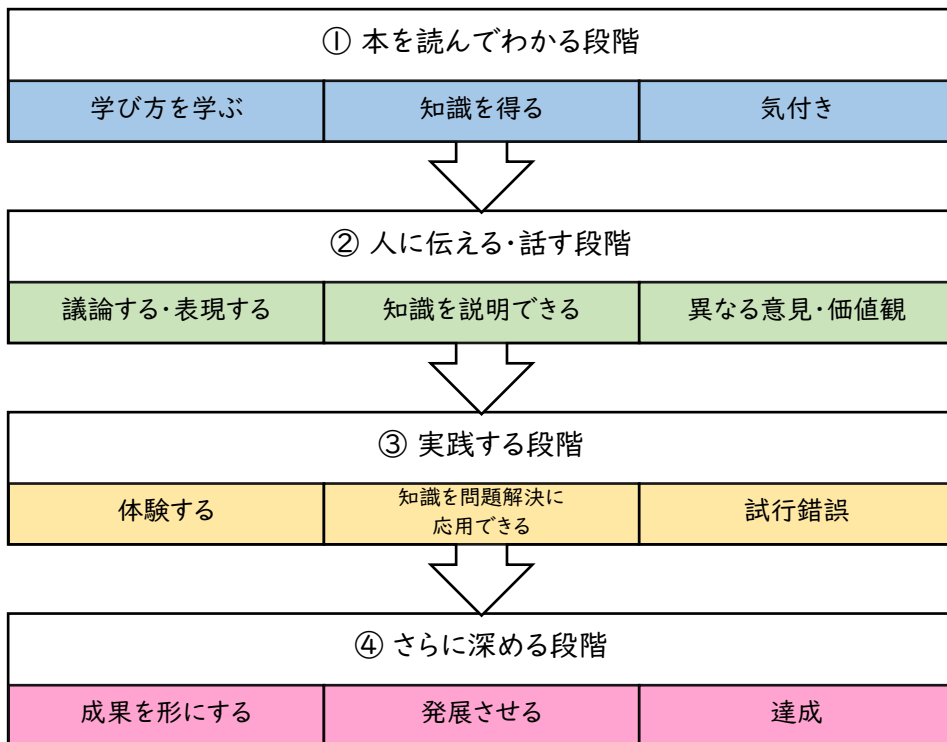
察、探究し、幅広い教養や論理的思考力の獲得、社会的視野の拡大と意欲の醸成、豊かな感性を育みます。読書後の活動として、学外活動を行うこともあります。読書で得た知識を基に現実社会が抱える社会的課題を自身の目で確かめ、解決策を考え、提示することで自身の学びを振り返り、更に深めることを目的としています。

また、各講師が担当する「読書から始まる知の探究」（「セッション」といいます）の内容によって、新島塾第4期塾生（2023年度の学部3年次生）と第5期塾生（2023年度の学部2年次生）の合同で実施するものがあります。その他、塾生自身が学びたいテーマを主体的に検討、選定し、塾生自らが当該分野を専門とする本学専任教員に講師を依頼し、組み立てるセッションも設けています。

※各セッションの活動概要やこれまでの活動実績は、入塾の手引き（別冊・活動内容紹介）や新島塾のオリジナル Web サイトをご確認ください。

➤ 「読書から始まる知の探究」段階的な学習のイメージ

「読書から始まる知の探究」の各セッションは、4つの段階で構成され、塾生が主体的かつ能動的に学びを深めることができるよう設計されています。



3.合宿で鍛える知的基礎体力（9月上旬予定 ※3泊4日）

日常生活から離れて塾生や講師と時間・空間を共有して語り、仲間と協働する価値を学ぶことに集中します。事前に合宿のテーマに関連する課題図書を読み込み、合宿中は担当教員による講義の受講と確認の小テストを繰り返します。また、事後レポートの作成や討論を行い、専門分野に留まらない学知の必要性を思い知るとともに、複雑な社会情勢を読み解くための

基礎力を培います。

塾生は、この合宿によって学知の基礎とそれをどのように獲得するのか、その学習方法を身に付けるとともに、学問と向き合い探究することの重要性に気付きます。

新島塾塾長をはじめとする本学専任教員の他、学外講師を招聘し、2023年度は9月上旬に同志社びわこリトリートセンター（滋賀県大津市）で3泊4日の合宿を行う予定です。

2022年度は「戦争と平和、戦争と教育」をメインテーマに「文学」「数学」「科学史」「ころ」など多面的な視点から捉えました。

➤ 2022年度テーマ（参考）

「戦争と平和、戦争と教育」

➤ 2022年度講師（敬称略、順不同）

講師	所属等
植木 朝子	同志社大学長・同志社大学新島塾塾長、文学部教授
佐藤 優	神学部客員教授、作家、元外交官、同志社大学特別顧問（東京担当）
東畑 開人	臨床心理士、公認心理師、白金高輪カウンセリングルーム主宰、慶応義塾大学大学院社会学研究科訪問准教授
渡辺 政隆	生命医科学部特別客員教授、翻訳家、サイエンスライター、日本サイエンスコミュニケーション協会会長
多久和 英樹	理工学部教授
後藤 琢也	理工学部教授、学長補佐

■ 正課科目（推奨）

同志社大学では、所属学部の専門科目以外にも、学問的知識の教授に留まらない人格形成に大いに資する授業科目を数多く提供しています。正課授業のうち、同志社大学の特色である全学共通教養教育科目を中心に編成しています。

同志社建学の精神やキリスト教について学ぶ科目や、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ科目等の履修を通して、外国語によるコミュニケーション能力を鍛えるとともに、異文化及び日本文化、世界の諸相及び諸課題への理解を深めます。

■ 課外プログラム（推奨）

同志社大学では、人格形成に資する多種多様な課外の実践を提供しています。ここに挙げた課外プログラムは、大学が提供する課外活動のうち、本学の人物養成に即した多くの要素が存在し、他者に寄り添って利害を離れて協働する実践を中心に編成しています。

自治自立の精神を涵養する本学の特色ある実践に参加し、他学部生や外国人留学生、地域社会、教職員との交流を通して、傾聴力、包容力、コミュニケーション能力、チームワーク、決断力等、社会を生き抜く基礎力を培います。

■新島塾の修了要件

【必須要件】必修プログラム(①～③)すべてを2年間受講し、課題を完遂すること

必修 (①) ③	① 「リーダーシップ論・ワークショップ」 ② 「読書から始まる知の探究」 ③ 「合宿で鍛える知的基礎体力」
----------------	---

【推奨】正課科目(④～⑥)の履修

【推奨】課外プログラム(⑦～⑩)への参加

【推奨】 正課科目 (④)～ (⑥)	④ 全学共通教養教育科目「同志社科目群」から1科目以上 ⑤ 全学共通教養教育科目「クリエイティブ・ジャパン科目」から1科目以上 (「京都科目」・「クールジャパン科目」・「クリエイティブ・ジャパン科目」・「外国人留学生とともに学ぶ科目」のいずれか) ⑥ 以下のいずれか1科目以上 ・「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」 ・「ドイツ語・異文化理解 EU キャンパスプログラム」 ・全学共通教養教育科目「外国語教育」のうち留学関連科目 (「サマープログラム・スプリングプログラム・セメスタープログラム」) ・学部で実施している Study Abroad や海外インターンシップ等の正課科目
【推奨】 課外プログラム (⑦)～ (⑩)	⑦ 学生支援センターが所管する課外プログラム 7-1.函館キャンプ【学生支援センター】 7-2.チャレンジドキャンプ:障がい体験プログラム【学生支援センター】 ⑧ キリスト教文化センターが所管する課外プログラム Doshisha Spirit Tour【キリスト教文化センター】 ⑨ 学生スタッフ 9-1.ARCO(ボランティア支援室学生スタッフ)【ボランティア支援室】 9-2.障がい学生支援室サポートスタッフ【障がい学生支援室】 9-3.留学生ぴあサポート制度ぴあサポーター【国際センター留学生課】 9-4.SIED 学生スタッフ(国際交流スタッフ)【国際センター留学生課】 9-5.同志社クローバー祭実行スタッフ【京田辺校地学生支援課】 9-6.キリスト教文化センター学生スタッフ【キリスト教文化センター】 ⑩ 新島塾が実施する佐藤 優 講師による読書クラス

(注意事項)

※①から③の必修プログラムは、学部 2 年次と 3 年次の 2 年間にわたり参加いただきますが、Study Abroad やサマープログラム、在学留学等で参加できない期間がある場合、不参加のプログラムを次年度に受講いただきます。

※④から⑥に記載の全学共通教養教育科目とは、すべての学部生を対象とした共通の教養教育科目のことです。履修要項や科目の概要など詳細は下記を参照してください。また、先行登録の必要な科目があります。先行登録の要否は、所属学部の登録要領も併せて確認してください。

(参考) 全学共通教養教育科目 Web サイト URL

<https://cgle.doshisha.ac.jp/subject/overview.html>



※⑦から⑩までの課外プログラムは、事前に申込時期が定められているものが多くあります。詳細は各々の課外プログラムを所管する事務室にお問い合わせください。

■新島塾第5期塾生 入塾から修了までのロードマップ(イメージ)

年月	必修プログラム (①~③)				推奨 (④~⑥)	推奨 (⑦~⑩)
23年 3月				入塾式 リーダーシップ論・ワークショップ(①)	先行登録	問合せ
4月				読書から始まる知の探究(②-1) 【4月~6月】	一般登録	参加申込
5月						
6月						
7月						
8月						
9月				合宿で鍛える知的基礎体力(③) 【9月】	登録変更	
10月				読書から始まる知の探究(②-2) 【10月~12月】		
11月						
12月						
1月				読書から始まる知の探究(②-4・塾生企画) 【時期も塾生が決める】		情報収集
2月				活動状況報告書作成・提出		
3月				2年目活動開始 リーダーシップ論・ワークショップ(①)2年目	先行登録	参加申込
24年 4月				読書から始まる知の探究(②-3) 【4月~8月】	一般登録	
5月						
6月						
7月						
8月						
9月				合宿で鍛える知的基礎体力(③)2年目 修了式		
10月 ~3月				修了生による自主的な活動期間		

IV. 塾生(2023年度入塾・第5期塾生)の募集及び選考

新島塾では、それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、高い「志」を抱いて教養を深め、統合知を積極的に獲得しようとしている意欲に満ちた学生を募集します。

新島塾は、次のような学生を入塾希望者として求めています。

■新島塾が入塾希望者に求める学生像

知識・技能

幅広い教養と論理的・批判的思考力の育成に不可欠な広範な基礎学力を有し、専門分野の学びと新島塾の学びを両立できる学生

思考力・判断力・表現力

物事を根拠に基づき論理的に思考し、的確な判断のもと自らの言葉によって他者に正確に伝えることのできるコミュニケーション能力を有する学生

主体性・多様性・協働性

様々な学問分野への興味関心と新しい課題に積極的に取り組む強い熱意があり、多様な背景を持つ他者と協働して学ぶ姿勢を有する学生

これらの学生の入塾を受け入れるために、多様な観点からの評価による選抜を行います。

■入塾資格

以下のa～eの要件すべてを満たす者。

- a) 2023年4月1日時点で本学学部2年次の者
- b) 新島塾のハードワークを**最後までやり遂げる力がある者**
- c) リーダーやリーダーシップについて強い関心を持ち、生涯を通じて自身を磨き高める意欲や社会に貢献する強い志を持つ者
- d) **新島塾のすべての活動に主体的に取り組む意志**を持ち、他の学生と互いに切磋琢磨して学び、関係する人に刺激を与えられる者
- e) 英語運用能力や数的思考力がある者が望ましい

■Zoom入塾説明会 兼個別相談会

入塾説明会は、Zoomを用いてオンライン形式で行います。

先輩塾生である新島塾第4期生が当日の進行を行います。個別相談の時間も設け、出願前に皆さんの疑問や不安を解消します。

<第1回> 2022年12月21日(水) 10:45 ~ 12:15

<第2回> 2022年12月23日(金) 14:55 ~ 16:25

■ 出願方法および出願書類

入塾希望者は、出願期間内に同志社大学新島塾（第 5 期塾生）志願票 Forms^(*)を提出してください。

顔写真、CASEC のスコア^(*)は、画像をアップロードしてください。

志望理由は所定の Word ファイルで作成し、アップロードしてください。

出願書類に不備がある場合、修正を求めます。

出願書類

(*) 第 5 期塾生志願票 URL・QR コードはこちら

<https://forms.office.com/r/KFV7MFWPxt>



(*) CASEC のスコアを必須とします。その他、実用英語技能検定、GTEC、IELTS、TOEFL iBT、TOEIC Listening & Reading TEST、ケンブリッジ英語検定のスコアを追加で提出することも可とします。

■ 出願期間および選考日程

出願期間	2022 年 12 月 13 日(火) ～ 2023 年 1 月 12 日(木) 17 時
第 1 次審査結果発表	2023 年 1 月 17 日(火)
第 2 次審査	2023 年 1 月 21 日(土)
第 2 次審査結果発表	2023 年 1 月 27 日(金)

■ 選考過程と結果発表

選考に関する諸連絡は、すべて新島塾事務局のメールアドレスからメールで行います。大学が付与している E-Mail アドレス (@以下が .doshisha.ac.jp で終わるアドレス) 宛に送ることとし、Gmail など個人のメールアドレスには送信しません。

新島塾事務局（高等研究教育院事務室）メールアドレス

ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp

審査番号通知

出願書類を受理した後、審査番号をメールで案内します。仮に出願書類に不備がある場合、修正を求めます。出願書類提出後は、特にこまめにメールを確認してください。

第1次審査(書類審査)

出願書類および1年次春学期の成績によって審査します。

第1次審査結果発表

2023年1月17日(火)に、第1次審査の結果をメールでお知らせします。

第2次審査(面接審査・Zoom)

第1次審査を通過した方は、2023年1月21日(土)にオンラインで実施する面接審査に進んでいただきます。出席できない場合は不合格となります。

面接実施の時間は、第1次審査結果の通知時に案内します。

第2次審査結果発表

2023年1月27日(金)に第2次審査の結果をメールでお知らせします。

V. その他

■活動状況の報告について

- ・塾生は、通塾期間を通して活動状況や活動計画の報告を年に1回行います。
- ・必修プログラムへの欠席が続くなど履修状況が思わしくない塾生には、個別に面談を行い、退塾を勧告することがあります。

■新島塾に関しての連絡について

- ・大学が付与している E-Mail アドレスで新島塾メーリングリストを作成します。
- ・塾生全体への連絡は、メーリングリストを通じて行います。
- ・塾生個人への連絡は、大学付与のメールアドレスに行い、Gmail など個人のメールアドレスには送信しません。大学付与のメールアドレスをチェックする習慣がない人は、必ず転送設定をしてください。
- ・事務局からの連絡には、必ず返信してください。受信確認も兼ねています。

■広報媒体への掲載について

新島塾の活動の様子は、動画や写真で撮影します。同志社大学公式ホームページや同志社大学 VISION2025 の Web サイト、同志社大学公式 SNS、その他本学の刊行物等の各種媒体に掲載します。あらかじめご了承ください。

また、塾生個人が特定できる形での広報発信や、学外の Web サイトへの掲載は、事前に内容を説明し、本人の了解を得た場合にのみ行います。

■塾生自身による情報発信について

新島塾では公式 Instagram を開設しています。塾生自身が新島塾の取組や活動について主体的に情報発信を行うことで、塾生の発信力強化と学内外での新島塾のプレゼンス向上を目的としています。積極的に活用してください。

Instagram: neesimajyuk_official



NEESIMAJYUK_OFFICIAL

■個人情報保護について

提出いただいた個人情報(学生 ID・氏名等)は、新島塾の運営に限って利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。なお、個人が特定されないよう統計処理した情報は、大学が調査資料として利用します。取得した個人情報は、同意を得ず第三者に提供しません。あらかじめご了承ください。

■修了生への期待について

新島塾修了生には、塾の人物養成の指針に基づき、後輩塾生の活動（合宿等）のチューターを務めることや、新島塾のOB・OG会活動により生涯を通じた人的ネットワークを構築のうえ自身を磨き高めるとともに、現役学生をサポートすることが期待されています。

VI. よくある質問 (FAQ)

- ・新島塾に参加すると、どのような能力が身につきますか。

学部を超えた学びによって、これからの社会をけん引する人材に必要な「深い教養」の土台を築くことができます。学部とは違った環境で、意欲溢れる塾生と共に学ぶことができるのは新島塾ならではです。修了生からは、「本や新聞で得た知識、情報を鵜呑みにせず、それが本当かどうか、別の視点から捉える姿勢が身についた。」「いろんな塾生のファシリテートを見て、良いところを吸収し他団体やゼミ活動で活かしている。」「新島塾でいろんな先生に出会えた経験から、他学部の先生にも自分から話を聞きに行く機会が増えた。興味を行動に移せるようになった。」などという声が聞かれます。説明会で先輩塾生に聞いてみるとよいでしょう。

- ・新島塾に参加すると、就職活動に有利ですか。

就職に直結することや、特に有利ということはありません。しかし、学問分野の壁を越えた学びを通して、多くの本を読み、多面的な視野で物事を考え、議論を交わしたという経験は他の同志社生には語れない貴重な経験であるとアピールする塾生もいます。実績として、多くの修了生は名だたる大企業に就職している他、大学院に進学する修了生も多くいます。

- ・新島塾は、資格取得を支援しているのですか。

はい、費用面の支援として新島塾塾生を対象に各種検定料・受検料補助があります。多くの塾生がこの制度を利用しています。補助対象は、「実用数学技能検定(数検)、実用英語技能検定(英検)、日商簿記検定、ニュース時事能力検定、TOEIC Listening & Reading Test」の5つです。資格取得に向けた学習は、客観的な能力評価や、明確な目標設定とその達成に向けた学習習慣の定着に役立つと考えています。

- ・新島塾はどれくらいの頻度で活動しているのですか。

新島塾全体での活動は、月に1-2回程度です。しかし、全体での活動だけでなく、参考図書精読やグループ活動などの日々の学習が欠かせません。塾生は、学部での学びに支障をきたさないよう時間管理を意識しながら日々の活動に励んでいます。

- ・教職課程や図書館司書課程は、新島塾と両立できますか。

どうしても土曜日に新島塾の活動と教職課程や図書館司書課程科目の授業日が重なることがあります。また、介護等体験や教育実習と重なることがあります。説明会で先輩塾生の様子を聞いてみるとよいでしょう。新島塾の活動と授業が重複する際は、事前に担当の先生やコーディネーターに相談してください。

- ・アルバイトやクラブ・サークル活動は、新島塾と両立できますか。

アルバイトは、多くの塾生がしています。クラブやサークルに所属している学生もいます。しかし、土曜日や日曜日に試合や公演があるクラブ・サークルやとの両立は困難です。たびたび欠席することになるとクラブ・サークル活動も新島塾も中途半端になり、他の塾生に迷惑が掛かります。慎重に計画して出願してください。新島塾の活動は、事前にスケジュールが分かります。塾生はバランス

をうまく取って両立させているようです。説明会で先輩塾生の様子を聞いてみるとよいでしょう。

・新島塾の活動がある日は、丸一日活動するのですか。

いいえ。必修プログラム「読書から始まる知の探究」を例にすると、土曜日の1.2講時や3.4講時など2コマ連続の実施となることが多いです。短期集中型で学びを深められることが新島塾の魅力でもあります。朝から夕方までのような終日の活動が日常的に行われるわけではありません。ただし、合宿やフィールドワークは終日の活動です。

・新島塾の活動をしながら、留学は可能ですか。

留学といってもサマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラム、交換留学など種類や期間はさまざまです。留学経験は、個人の成長に繋がるだけでなく他の塾生や新島塾全体にもプラスの効果を及ぼします。しかし、留学期間に応じ新島塾塾生としての活動期間が延びます。たとえば1年間の留学に行くと、学部4年次まで新島塾の活動は続きます。就職活動と新島塾の活動期間が重なる点は避けられません。新島塾の活動には相応の時間と労力を要します。慎重に計画して出願してください。

・グローバル・コミュニケーション学部には所属しています。学部2年次に1年間の海外留学に行くのですが、新島塾に出願できますか。

はい、出願できます。しかし、学部2年次に海外留学を行うため、新島塾の通塾期間は学部3年次から4年次まで続きます。ひとつ上の質問への回答を参照してください。

・新島塾は、途中で辞めてもいいのですか。

最後まで学び通す強い意思を持った方に門を叩いてもらいたいと考えています。本気で学ぶ覚悟と自己成長に向けた情熱をもつ学生を募集しています。欠席が多いなど活動状況が振るわない塾生は、コーディネーターが個別に面談を行い、退塾を勧告することがあります。

・新島塾の参加資格は何ですか。どうすれば新島塾に参加できますか。

2023年4月に学部2年次生となる本学学生であることです。入塾希望者は、出願書類を提出してください。2023年1月に行う入塾者選抜に合格すれば参加できます。

・2022年12月現在、学部1年次生です。入塾資格はありますか。

はい、あります。2023年4月に学部2年次生となる学生に入塾資格があります。学部2年次から学ぶ教育プログラムで、途中入塾はできません。

・新島塾の出願にあたり、GPAなどの成績基準はありますか。

いいえ。明確な成績基準は設けていませんが、入塾者選抜の参考にしています。

・塾という名前ですが、入塾料など費用の負担はありますか。

いいえ。入塾料や月額費用負担などはありません。「合宿で鍛える知的基礎体力」への参加費用や「読書から始まる知の探究」で行うフィールドワークへの参加費用など、活動に掛かる費用の

大半は大学が負担します。原則無料ですが、必修プログラムで用いる課題図書や参考図書の購入費用など一部は入塾者の負担となるものがあります。詳細は、4 ページを参照ください。

・問合せしたいのですが、事務局はどこにありますか。

事務局は今出川校地 致遠館(ちえんかん)2階にある高等研究教育院事務室です。問合せは電話でもメールでも受け付けています。

VII. 先輩塾生の声

皆さんの先輩たちに、新島塾についてインタビューを行いました。

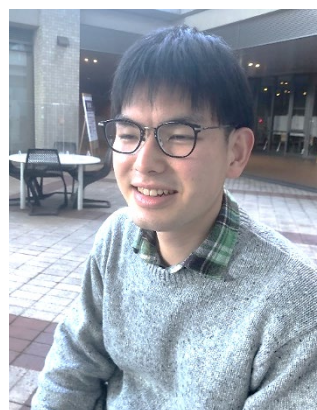


入学以来、自身の学部以外の人々と学ぶことの出来る環境に惹かれていました。社会に出る上で、視野を広げる機会を持ちたいと考えていました。そのような学びの機会、新島塾でふんだんに得ることが出来ました。セッションで扱うテーマは、多様であり、読む書籍の範囲も一気に広がりました。加えて、セッションでは自分の意見を持ち、発信することの力が養われました。メンバーと問題意識を持って議論を繰り返すことには、最初は慣れずに気後れしましたが、今では楽しいものとなっています。それ以上に**新島塾で私が得たものは周りからの刺激です。メンバーからは、勉強し続ける姿勢や、新しい見方を得ることが出来ます。**合宿でお会いできる塾長の植木学長や佐藤先生の存在も大きいと感じています。先生方のメッセージは私の人生を考える

上での指針になっています。私は、新島塾で大きな刺激を受け、様々なことを学ぶことが出来たと感じています。これからも学び続ける姿勢を大切に、将来は、学んだことを社会に還元できる人間になりたいと思っています。

(2期生・文学部)

新島塾の存在を知ったのは DUET からの連絡で、「多学部」「リーダー養成」という言葉に惹かれお申し込みしました。当時の私は、「自分」が賢くなって優秀な社会人として活躍しようとしていました。自分の努力次第で成長できると考えていたのです。しかし、それだけでなく、人によって私は磨かれ続けていると感じています。服部先生(政策学部)の読書セッションでは、**社会の状況、社会を知るための学び方を教えていただきました。それは入塾当時の目標がいかに視野の狭いものであったか痛感させるものでした。**今では、社会を念頭に置きながら、自分で目標を立てて勉強しています。そして作家の佐藤優先生には、勉強の仕方を含め、実務的な暗記の仕方、大学を出た後の将来、大学生に必要な知識と様々なことを指導いただきました。



それらは継続して勉強する上での基礎となっています。さらに、新島塾の2期生、3期生を含めた仲間によっても私は磨かれています。新島塾の塾生は、社会に働きかけようとする人や、芸術の観点で取り組んでいる人など何かしら興味のあることがあり、走っています。仲間のそのような活動に刺激を受け、私も積極的に頑張りたい気持ちになります。そして私が何かするとき、新島塾の人たちはそれを手助けしてくれます。

聖書にはこのような言葉があります。「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」というものです。新島塾での先生や仲間、講師の方々、職員の方々といった新島塾に関するすべての『その友』から研磨されていると感じています。自分のなすべきことをして、これからも自身を研磨していこうと思います。

(3期生・心理学部)

【問い合わせ先】

同志社大学新島塾事務局(高等研究教育院事務室)

TEL :075-251-3259

E-mail:ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp



NEESIMAJYUK.OFFICIAL



同志社大学新島塾

